

# 第60回 全日本聾教育研究大会 (青森大会) 開催要項



全日本聾教育研究会  
J.A.E.R.D.  
Japanese Association of  
Educational Research for the Deaf

全 日 本 聾 教 育 研 究 会  
東 北 聾 教 育 研 究 会  
全日本聾教育研究大会(青森大会)実行委員会

令和8年(2026年)11月5日(木)～6日(金)

# 第60回 全日本聾教育研究大会（青森大会）開催要項

1 大会名称 第60回全日本聾教育研究大会（青森大会）

2 大会主題 「新しい時代を切り拓く力を育む聴覚障がい教育の創意工夫」  
青森県3校共通テーマ  
「よく考え主体的に学ぶための授業づくり」

## 【主題設定の理由】

中央教育審議会における答申（令和3年1月）では、「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、全ての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と、「協働的な学び」を実現する学校の在り方が示された。この中で、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力として、学習指導要領の着実な実施やICTの活用によって、「一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようすること」が必要であるとしている。

また、学習指導要領では、育成を目指す子どもたちの資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性が述べられている。

一方、聴覚障がい教育では、先人の培ってきた教育を継承し、その専門性を障がいの多様化や社会の変化に対応させながら、学力や人間関係形成の基盤となる言語力の育成、コミュニケーション能力等を育んできた。そして近年では、障がいの重度重複化、少子化による在籍者数の減少、社会の変化によるニーズの多様化等、様々な課題に直面している。時代が移っても、子ども一人一人の適切な実態把握や、言語力、コミュニケーション能力等を育むための指導技術、聴覚障がい教育の専門性はこれからも継承され、発展させていくことが求められることに変わりはない。そのためには、日々の授業実践を大切に、常に授業改善に努めていかなければならない。また、子ども一人一人が自分の良さや可能性を認識するとともに、相手の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かに生きていくためには、主体的・対話的で深い学びの実現が重要である。

本大会では、聴覚障がい教育が抱える様々な課題について協議するとともに、集団と少人数、デジタルとアナログのように、対極と言われるようなことでありながらも、それぞれの良さや強みを活かした授業実践の共有を通して、子どもたちが主体的に豊かに学び、自他を認め、新しい時代を切り拓いていくために創意工夫が必要であると考え、本主題を設定した。

3 会期 令和8年（2026年）11月5日（木）・6日（金）

## 4 会場

### [公開・指定授業]

・青森県立八戸聾学校（指定：幼稚部・小学部）  
〒031-0081 青森県八戸市柏崎6丁目29番24号  
TEL 0178-43-3962 FAX 0178-43-3942

・青森県立青森聾学校（指定：中学部・高等部）（寄宿舎公開）  
〒038-0021 青森県青森市大字安田字稻森125番地1  
TEL 017-766-1834（FAX兼用）

### [授業研究分科会・寄宿舎情報交換会・開会行事・記念講演・研究協議分科会]

・青森市文化会館（リンクステーションホール青森）  
〒030-0812 青森県青森市堤町1丁目4番1号  
TEL 017-773-7300 FAX 017-776-2066

### [研究協議分科会]

・青森県観光物産館アスピーム  
〒038-0803 青森県青森市安方1丁目1番40号  
TEL 017-735-5311 FAX 017-735-2067

<b>5 主 催</b>	全日本聾教育研究会 東北聾教育研究会	
<b>6 主 管 校</b>	青森県立青森聾学校	
<b>7 協 力 校</b>	青森県立八戸聾学校 秋田県立聴覚支援学校 岩手県立盛岡聴覚支援学校 宮城県立聴覚支援学校 山形県立山形聾学校 福島県立聴覚支援学校 福島県立聴覚支援学校平校	青森県立弘前聾学校 岩手県立一関清明支援学校 宮城県立聴覚支援学校小牛田校 山形県立酒田特別支援学校 福島県立聴覚支援学校福島校 福島県立聴覚支援学校会津校
<b>8 後援（予定）</b>	文部科学省 青森県教育委員会 青森市教育委員会 全国聾学校長会 全国聾学校教頭会 全国特別支援学校長会 東北地区聾学校長会 東北地区聾学校教頭会 青森県特別支援学校長会 全国ろう学校 P T A 連合会 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会	
<b>9 協賛（予定）</b>	公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会 公益財団法人日本教育公務員弘済会青森支部	
<b>10 記念講演（大会1日目）</b>	11月5日（木）15：40～17：00 青森市文化会館 大ホール 【講師】筑波技術大学 准教授 脇中 起余子 氏 【演題】口話・キー・手話、聴覚活用の波間から日本語獲得を考える～接する日本語の量と質の大切さ～	
<b>11 大会日程及び会場</b>		
(1) 大会事前日程	<p>指定授業【動画：幼稚部（八戸聾学校）・中学部（青森聾学校）オンデマンド配信】  【指導案：大会ホームページより閲覧】</p> <p>※八戸聾学校小学部と青森聾学校高等部は大会当日に実施予定ですが、都合により変更になる場合もあります。</p>	
配信期間 指導案掲載期間	令和8年10月5日（月）から11月4日（水）まで	
事前質問受付	令和8年10月5日（月）から10月20日（火）まで	
(2) 大会日程		
月 日	時 間	日 程【会 場】
大会前日 11月4日（水）	15:00～16:30	全日本聾教育研究会理事会 【青森市文化会館】
1日目 11月5日（木）	9:40～	【青森聾学校】 受付
	10:10～11:00	8:25～ 9:40 指定授業[高等部] 公開授業[幼、小、中学部] 寄宿舎公開
	11:30	10:00 学校発[シャトルバス(希望者)]
	12:00	12:00 会場着・昼食休憩
	12:50～	受付【青森市文化会館】
	13:15～14:40	授業研究分科会・寄宿舎情報交換会
	14:55～15:25	開会式（大ホール）
	15:40～17:00	記念講演（大ホール）
		※全国聾学校絵画展【青森市文化会館2階ロビー】（前日準備、午後から開催）

2日目 11月6日（金）	分科会・閉会式	9:00～	【青森市文化会館】受付	【アスパム】受付
		9:30～12:00	研究協議分科会	
		12:00～13:00	昼食・休憩	
		13:00～15:45	研究協議分科会	
		15:45～16:00	閉会式（分科会ごと）	

### （3）事後日程

	方 法	期 間
記念講演	後日、全日聾研ホームページの会員専用ページに掲載	※今後、お知らせします

## 12 設定分科会

### （1）授業研究分科会

○研究テーマ 「よく考え主体的に学ぶための授業づくり」

分科会名 【会場名】	研究テーマ	助言者
幼稚部 【青森市文化会館】 中会議室	主体的な活動における言葉を育てる指導の在り方	星槎大学 教授 原田 公人 氏
小学部 【青森市文化会館】 大会議室	よく考え論理的思考力を育てる授業の在り方	東北福祉大学 教授 大西 孝志 氏
中学部 【青森市文化会館】 小会議室（1）	生徒が主体的に考える授業づくり	筑波技術大学 教授 長南 浩人 氏
高等部 【青森市文化会館】 小会議室（4）	主体的に課題に向かう力を伸ばす授業づくり	筑波技術大学 准教授 脇中 起余子 氏

※寄宿舎情報交換会 【青森市文化会館】リハーサル室

### （2）研究協議分科会

分科会名 【会場名】	協議主題（分科会テーマ）	助言者
	主題設定の理由	運営担当校
1 早期教育1 (乳幼児教育、センター的機能)  【青森市文化会館】 大会議室	親子間の豊かなかかわりに対する支援の在り方～保護者の伴走者としての相談支援の在り方～  近年、人工内耳の普及、補聴機器の高性能化、核家族化、共働き率の増加など、聴覚障がいのある子どもを取り巻く家庭・教育環境は大きく変化してきている。また、相談に訪れる子どもの障がいも重度・重複化しており、実態が多様になってきている。このように多岐にわたるニーズに対応した保護者支援が求められる中、特に親子間の豊かなかかわりに対する支援の在り方について深めていく。	山形県立村山特別支援学校 教諭 庄司 美千代 氏 (山形県立山形聾学校前校長)  山形県立山形聾学校 山形県立酒田特別支援学校

2	<p>早期教育 2 (幼稚部)</p> <p>【青森市文化会館】 中会議室</p>	<p>遊びを通してやりとりが深まる支援の在り方 ～幼児とのかかわり・幼児同士のかかわり～</p> <p>幼児にとって、遊びは運動機能の向上だけでなく、他者とのかかわりを深め、ことばの獲得にとって大事な学習の機会である。教員や保護者と幼児のかかわりを基盤に、事象の共有を通して信頼関係を構築し、情緒の安定や他の幼児との交友関係を築き始める。どのようにすれば幼児が遊びをより深めができるのか、我々の支援の在り方を省察していく。</p>	<p>柴田学園大学短期大学部 学長 島内 智秋 氏 筑波大学附属聴覚特別支援学校 教諭 林 徳子 氏</p> <p>福島県立聴覚支援学校福島校 福島県立聴覚支援学校平校 福島県立聴覚支援学校会津校</p>
3	<p>教科教育 1 (小学部)</p> <p>【アスパム】 白鳥</p>	<p>自分の思いをことばで表現し、学んだことを生かし、豊かに生きる力を育むための授業の在り方</p> <p>小学部段階では、基礎的な学力と言語力の育成及び定着をベースとして、児童が自ら学びに向かったり、協働的な学習の中から自分の考えを広げたり、深めたりできる授業の工夫が求められる。児童が自分の思いをことばで表現するための言語力の育成を目指す授業の工夫と、学び合う場面や考えを深め広げる授業の工夫について意見交換する。</p>	<p>東北福祉大学 教授 大西 孝志 氏</p> <p>岩手県立盛岡聴覚支援学校 岩手県立一関清明支援学校</p>
4	<p>教科教育 2 (中高文系)</p> <p>【青森市文化会館】 小会議室（1）</p>	<p>多様な生徒一人一人に合わせた対話的学習の在り方</p> <p>昨今の機器の性能によるきこえの多様性、発達障がいを併せ有する生徒など、様々な生徒への対応が聴覚障がい教育（聾教育）にも必要とされ続けている。また、学習指導要領における「個別最適化」ということからも、一人一人に対応した学習の在り方が強く求められる時代である。対話を通じて一人一人に適した学習の在り方を意見交換する。</p>	<p>筑波技術大学 教授 長南 浩人 氏</p> <p>福島県立聴覚支援学校</p>
5	<p>教科教育 3 (中高理系)</p> <p>【青森市文化会館】 小会議室（4）</p>	<p>理系科目の学びを深め、生活に結び付けるために</p> <p>近年、理科や数学などの理系科目の学習内容を自分の身近なものとして捉えることが難しい傾向にある生徒が多く見られる。そこで、生徒が、身の回りの自然や社会の様々な事象に関心をもち、課題を見付け、探究・解決するための資質能力を身に付けることや、学習内容を学校生活や社会生活に結び付けていくために、題材設定や教材の工夫を行い、理系科目に対する興味・関心を引き出すような指導方法について協議する。</p>	<p>筑波技術大学 准教授 脇中 起余子 氏</p> <p>秋田県立聴覚支援学校 青森県立八戸聾学校 宮城県立聴覚支援学校 宮城県立聴覚支援学校小牛田校</p>

6	<p><b>自立活動1</b> (聴覚活用、発音・発語)</p> <p><b>【アスパム】</b> 岩木</p>	<p>一人一人の実態に応じた聴覚学習、発音・発語学習の在り方</p> <p>補聴器や人工内耳、デジタル補聴援助システム等、きこえに関する環境は日々変化している。学校現場には、幼児児童生徒の聴覚障がい等による個々の事態を把握し、日本語のリテラシーやコミュニケーションの力に結び付く発音・発語指導、聴覚学習の在り方を探求することが求められている。幼児児童生徒が主体的に学び、自分らしく生きていくための力を高める指導の在り方を協議する。</p>	<p>大東文化大学 教授 斎藤 友介 氏</p> <p>秋田県立聴覚支援学校</p>
7	<p><b>自立活動2</b> (障がい認識、進路指導、キャリア教育)</p> <p><b>【アスパム】</b> あすなろ</p>	<p>自分らしさに気付くための障がい認識と自己実現に向けた取り組みについて</p> <p>インクルーシブ教育の推進により共生社会に近づきつつある昨今ではあるが、幼児児童生徒が社会で自立するためには自分の障がいを受容し、周囲に発信していく力が必要である。聴覚障がいに関する認識と自分の身に起こりうる社会的障壁を解決するための言動を獲得していくことで自己肯定感を育み、自分らしく生きる力の礎になるのではないか。そこで、各校での実践を報告しながら、自己の障がい認識を深める指導や支援、発達段階に応じた段階的、系統的な指導内容や指導方法について研究する。</p>	<p>星槎大学 教授 原田 公人 氏</p> <p>宮城教育大学 教授 松崎 丈 氏</p> <p>宮城県立聴覚支援学校 宮城県立聴覚支援学校小牛田校</p>
8	<p><b>寄宿舎教育</b></p> <p><b>【アスパム】</b> 津軽</p>	<p>生きる力と豊かな心を育むための寄宿舎教育の在り方</p> <p>寄宿舎教育では、集団生活を通して、人とのかかわり方やマナーなどの社会性や自ら状況を把握し判断して行動する主体性を身に付けることが重要であると考える。寄宿舎を利用する児童生徒の卒業後を見据え、自立と社会参加を目指した生きる力と豊かな心を育むためのより良い支援・指導の在り方について研究する。</p>	<p>宮城教育大学 教授 菅井 裕行 氏</p> <p>宮城県立聴覚支援学校 宮城県立聴覚支援学校小牛田校</p>
9	<p><b>重複障がい教育</b> (発達障がい含む)</p> <p><b>【アスパム】</b> 八甲田</p>	<p>一人一人が生き生きと学習する姿を目指して</p> <p>特別支援学校（聴覚障がい）では、重複障がい幼児児童生徒の在籍者数が増加傾向にあり、その障がいの状態も多様化している。教育の内容や方法を単に障がいの状態に合わせるだけでなく、日常のコミュニケーションから一人一人の興味・関心等を把握することやそれを学習につなげる工夫によって、子どもが生き生きと学ぶ姿を引き出すことができるを考える。個々の指導実践から、このことについて深めていく。</p>	<p>弘前大学教育学部 元教授 佐藤 紘昭 氏</p> <p>青森県立弘前聾学校</p>

### 13 開会式次第（予定）

- (1) 開式の辞  
(2) 挨拶 全日本聾教育研究会 会長  
青森大会実行委員長（青森県立青森聾学校長）  
(3) 来賓挨拶 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官  
青森県教育委員会教育長  
(4) 来賓紹介 東北地区聾教育研究会 副会長  
(5) 閉式の辞  
(6) 諸連絡 大会事務局

### 14 閉会式次第（予定）（各研究協議分科会会場にて実施）

- (1) 開式の辞  
(2) 挨拶 全日本聾教育研究会 会長  
青森大会実行委員長（青森県立青森聾学校長）  
北海道大会実行委員長（北海道札幌聾学校長）  
(3) 閉式の辞

15 大会参加費 会員 2,000 円 会員外 3,500 円 学生 1,000 円（学部生、参観のみ）

### 16 研究発表

研究協議分科会の研究発表の資格は会員であることとします。なお、地区研究会に所属していない大学教員等は、下記の本部事務局に連絡し会員資格を得てください。発表件数が多い研究協議分科会においては、発表時間を十分に設定できない場合があります。  
また、研究発表は、一人一本までとします。予めご了承ください。

全日本聾教育研究会本部事務局 連絡先  
〒272-8560 千葉県市川市国府台 2-2-1 筑波大学附属聴覚特別支援学校内  
TEL 047-371-4135（代） FAX 047-372-6908

### 17 大会参加・宿泊等の申込

申込み内容	締切日	申込み・送付先
大会予備調査	令和8年（2026年）3月10日（火）	青森大会事務局（青森県立青森聾学校内） ※専用の Web フォーム [第 60 回全日本聾教育研究大会（青森大会）参加者メニュー] から <u>仮申込み</u> をしてください。
大会参加申込み 研究発表申込み シャトルバス申込み※	令和8年（2026年）6月16日（火）	青森大会事務局（青森県立青森聾学校内） ※専用の Web フォーム [第 60 回全日本聾教育研究大会（青森大会）参加者メニュー] から申込みをしてください。
研究発表原稿提出	令和8年（2026年）7月24日（金）	
その他 宿泊・昼食等について	宿泊・昼食の手続きについては、参加者ご自身で行ってください。ご協力をお願いいたします。特に、大会当日が紅葉シーズンであることから、大会間近では宿泊施設の予約ができない、もしくは高額になることも予想されますので、余裕をもってお早めにご予約ください。	

※シャトルバス（希望者）は、青森聾学校発 → 青森市文化会館着は1,000円  
八戸聾学校発 → 青森市文化会館着は2,500円

## 18 情報保障について

- ・開会式では、手話通訳、音声文字変換による字幕を準備いたします。記念講演では、手話通訳、要約筆記による字幕を準備いたします。
- ・授業研究分科会、研究協議分科会においては、情報保障を必要とする参加者がいる場合に行いますので、希望される場合は、参加申込み時に必要な情報保障にチェックを入れてください。
- ・申し込まれた場合には会場に「情報保障席」を準備いたします。張り紙のある椅子にお座りください。
- ・音声文字変換はUDトークを使用します。修正には努めますが、ある程度の誤変換も承知の上での活用となることをご了承ください。

## 19 自然災害等における対応について

気象警報が発令された場合も原則として大会は実施します。ただし、公共交通機関に影響があり、主管校の教職員が出勤できない場合は大会を中止とし、その旨を大会ホームページに掲載します。

## 20 大会事務局及び連絡先

第60回全日本聾教育研究大会（青森大会）事務局

〒038-0021 青森県青森市大字安田字稻森125番地1 青森県立青森聾学校内

TEL 017-766-1834 (FAX兼用)

E-mail zennichiro-aomori@zennichiro-con.sakura.ne.jp

大会実行委員長：木村 穎子 大会事務局長：高坂 正人